



ふるさとを胸に、未来へ ～関川村二十歳のつどい～

教育長 津野 庄一郎

8 月 15 日（終戦記念日）、関川村公民館大ホールで「二十歳のつどい」が開催され、32 名

（対象者 45 名）が晴れの日を迎えました。式辞で加藤弘村長は、「平和の尊さを心に留め、自分の目標に向かって力強く歩んでほしい」と、これから未来を切り拓いていく若者たちにエールを送りました。また、小沢仁議長は祝辞で、「人との出会い、縁が財産。失敗を恐れずに挑戦してほしい」と激励。人生の新たな一步を踏み出す皆さんに、温かい言葉を贈りました。出席者を代表して、東京の大学に進学した高橋正汰^{せいた}さん（大石）は、「責任ある社会人としての一步を進んでいきたい」と、力強く誓いの言葉を述べました。

この日は、中学校時代の恩師である市橋由希絵先生（現：佐渡市立高千中学校）と神田純平先生（現：県立東新潟特別支援学校）のお二人も、遠方から駆けつけてくださいました。数年ぶりの再会に、会場には懐かしさと喜びがあふれ、皆さんの笑顔がほころびました。

お二人の先生は、新型コロナウイルスの影響で修学旅行が中止になるなど、さまざまな制約の中で学校生活を送った当時を振り返り、「遠回りしても、やりたいことを見つけて前に進んでほしい」と、教え子たちのこれからを優しく見つめていました。

一方、参加できなかった仲間から寄せられた近況報告には、ふるさとへの思いが込められたメッセージもありました。「のびのびと暮らせてよかった。伝統や特色をこれからも維持してほしいです」（仙台市・男性）「There's no place like home（我が家にまさるところはない）」（埼玉県・女性）

それぞれの場所で、それぞれの道を歩む二十歳の皆さん。しかし、どれだけ遠く離れていても、ふるさと関川村は皆さんの原点です。そして、いつか帰る、きっと帰る場所です。皆さんを応援し、支え、見守ってくれる人たちが、ここ関川村にいてをいつまでも忘れないでください。

ふるさとを胸に刻み、それぞれの夢や目標に向かって、全国へ、そして世界へ、大きく羽ばたいてください。皆さんのこれからの人生が、よき出会いと挑戦に満ちた実り多きものとなることを願い、今後さらなる成長と活躍を、関川村から心より応援しています。

<【写真】看板は、6 年生当時の関川小学校長鈴木政信先生による揮毫^{きごう}>